

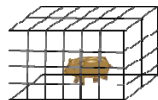
- 捕獲の強化と見回り作業の負担軽減のため、画像・センサーネットワークを活用したICT箱罠を導入。
- 画像による選別捕獲が可能なICT箱罠を用いることにより捕獲効率が向上し、見回り負担の軽減に寄与。
- 視察の受け入れや研修会・発表会への積極参加（事例紹介）等による広域鳥獣クラウドの普及協力。

### 高森町の課題

イノシシの生息数は減少せず、成獣を効率的に捕獲することが急務。町では狩猟者の減少に対応するため、銃器類を用いない「箱罠」を推進したが以下の課題が判明。

- **錯誤捕獲が多い**  
通常の箱罠による対象鳥獣（イノシシ成獣）の捕獲率が、平均で83%
- **罠の見回りに労力がかかる**  
13人で、地域に散在する罠29基を見回り  
(悪天候時はさらに労力がかかる)
- **罠の設置数に制約**  
見回る数に限界がある

また幼獣か～



### ICT箱罠の導入

「ICT箱罠」を活用した 広域鳥獣クラウドを導入

- **画像解析技術の活用**  
指定したサイズ以上の獣が入ると自動的に柵を閉じて捕獲することにより、対象鳥獣の絞り込みが可能
- **タブレットを用いた遠隔監視**  
複数の罠を遠隔監視できるので、見回りの省力化・管理する罠の数を増やすことが可能



### 導入の効果

H26年に導入した結果、

- **捕獲効率の向上**  
対象鳥獣（イノシシ成獣）の捕獲率100%
- **見回りの省力化**
  - ・タブレットを用いた遠隔監視をメインに行うため、毎日罠の状況を見に行く必要がなくなった。
  - ・地区の代表者がスマートフォンで捕獲状況を確認。作動していたら、罠設置者に電話連絡し、現場に向かう。

タブレットが全て教えてくれますよ。



### 〈効果〉

- 見回り回数の軽減（毎日 → 平均月10回 3分の1に軽減）
- イノシシ成獣捕獲率：ICT箱罠100% 既存罠 83%
- 被害額 5,379万円（H25）→5,037万円（H29）

### ○ +αの効果

どこで捕獲したかを地図上で管理できるため、今後の設置場所の検討材料に活用。

### きっかけ

農作物被害は減って  
おらず、生息数を減らす  
ことが必要。だが、狩猟者の  
減少等の課題。

### Step1 (H24~26)

#### イノシシ捕獲の強化

- 3年間で1,823頭の捕獲を行うも、生息頭数は減少せず。
- 被害額は横ばいで推移。

### Step2 (H26)

#### ICT罠の導入を検討

- 生息頭数及び被害額の減少ため、捕獲効率を向上させる必要があることから、ICT罠の導入を検討。

### Step3 (H26)

#### ICT罠の設置場所選定①

- 猟友会の会長や農地管理の責任者を介して、設置場所の選定や地主交渉を実施。
- 当時使っていた罠のICT化についても交渉。



成獣を捕獲し、効率的に生息頭数を減らす必要。

各地区の代表がタブレットにて、罠の稼働状況をチェック。捕獲の通知があったら、罠設置者に電話連絡という体制をとっている。

専門家の意見を反映し、設置場所を選定。

ICT箱罠による“効率的な捕獲体制”の確認等、現地研修会の開催も併せて行った。



### Step4 (H26)

#### ICT罠の設置場所選定②

- 装置の数に限りがあるため、実証地区全域の設置は困難。
- 専門家のアドバイスを参考に、設置場所を重点的に選定。

### 取組に当たっての秘訣

- 専門家との密な連携で、効果的な罠の設置場所を選定。
- 既存の罠をうまくICT化することにより、罠設置費用を抑制。
- ICT箱罠装置やケーブルが破損しないよう、保護対策を実施。

### 将来に向けて

- バッテリー交換に労力がかかっている状況であり、バッテリーを鉛からリチウムバッテリーに交換し、管理にかかる労力を削減。
- 捕獲個体の有効活用を行うため、処理加工施設の整備等、出口戦略に力を入れていく。

### Step5 (H26)

#### ICT罠の導入

- 上色見地区に12台、色見地区に17台のICT罠を設置し効果を検証。
- 専門知識を持った者による現地サポートを密に行い、より効率的に運用。

取組を経て…

ICT箱罠からの電波が届きにくい山中へは、ICT箱罠と中継装置をセットで設置し、設置場所の自由を確保。

